

研究課題名：経済性と社会性を両立するビジネスプラットフォーム

所属・学年：政策・メディア研究科 修士課程1年

研究者氏名：山本 紗知

## 1. 研究概要

昨今、深刻化・複雑化する社会課題の解決に向けて、多様な主体間の協働の重要性が高まっている。企業の経済活動が社会との共存・共栄なしになし得ず、国内外における先進的企業は、経営戦略として地域社会やNPO等との共通価値の創造、協働に取り組み始めている。本研究は、Porterらが提唱する共通価値の創造（Creating Shared Value）というコンセプトの下、企業・行政・NPO等が積極的に役割を發揮する多主体間の協働プラットフォームの事例研究を行い、その共通項を見出すことによって、協働プラットフォームの持続的運営において効果的なフレームワークの構築に寄与することを目的とする。

## 2. 研究目的

本研究では、共通価値の創造というコンセプトの下、企業・行政・NPO等が積極的に役割を發揮する多主体間の協働プラットフォームの事例研究を行い、その共通項を見出すことによって、協働プラットフォームの持続的運営において効果的なフレームワークの構築に寄与することを目的とする。

## 3. 調査方法

- (1) 事例調査を行う前に文献調査等で経営学、社会学におけるプラットフォーム研究の系譜を確認・整理する。
- (2) 調査対象候補についての文献調査、ヒアリング調査を通じて、グッド・プラクティスの選定を行う。
- (3) イン（2011）のケース・スタディ法等を参考に、事例研究としての妥当性の確認を行いながら全体構成・理論開発を進める。
- (4) インタビューや参与観察を中心とし、当事者と積極的にコミュニケーションを行う。その上で、各組織の沿革や社会的背景を考慮し、高次の視点で研究を行う。
- (5) 分析の際には、各企業が取り組むプロジェクトと経営理念との親和性、社員への浸透度・参加意識等、従来CSRで重要とされてきた点についても考察を加える。

## 4. 活動報告

### (1) 文献調査

文献調査により、多主体間協働プラットフォームの運営に効果的な事業評価手法「SROI（社会的投資収益率）」に注目した。SROI（社会的投資収益率）は、非営利組織や社会的事業のパフォーマンス（業績）を定量的に評価する手法として、英米で発展し普及が進んでいる。評価プロセスにおいてステークホルダー間で協議を行い、ロジック・モデルに

基づいてステークホルダーごとの利益と事業の最終目標、およびその評価指標を定義した「インパクト・マップ」を作成していくことから、事業およびその評価に対するステークホルダーの理解を高め、ステークホルダー間の合意形成を促進し、参加意識を醸成する手法としても有用性が期待されている。

本研究では、この SROI を用いて事業評価を行っている多主体間協働型事業を調査対象とし、ステークホルダー間の目標の共有や合意形成について、そのプロセスを調査・分析することとした。

■キーワード：SROI(Social Return on Investment)：社会的投資収益率。社会的事業の経済的効果(金額)を投入したリソースの金額で除した投資収益率。

■参考文献

源由理子（2008）「参加型評価の理論と実践」、三好皓一編著『評価論を学ぶ人のために』、95-112  
三好皓一・田中弥生（2001）「参加型評価の将来性—参加型評価の概念と実践についての一考察」、『日本評価研究』1（1）：65-79

Amo, C. & Cousins, J.B.（2007）. Going Through the Process: An Examination of Operationalization of Process Use in Empirical Research on Evaluation, Process Use in Theory Research, and Practice, New Direction for Evaluation, American Evaluation Association, Jossey Bass, San Francisco, 5-26

Cousins, J.B., & Leithwood, K.A.（1986）. Current empirical research on evaluation utilization, Review of Educational Research, 56, : 331-364

Fetterman, D. M.（2001）. Foundation of Empowerment Evaluation, Sage Publications

Johnson, K., Greenesid, L.O., Toal, S.A., King, J.a., Lawrenz, F., and Volkov, B.（2009）. Research on Evaluation Use: A review of the empirical Literature From 1986 to 2005, American Journal of Evaluation, 30（3）

Patton, M.Q.（1997）. Utilization-Focused Evaluation, The New Century Text, 3rd edition, Sage Publications

Preskill, H., Suckerman, B. & Matthews, B.（2003）. An Exploratory Study of Process Use: Findings and Implications for Future Research, The American Journal of Evaluation, 24（4）, 423-441

Shulha, L.M. & Cousins, J.B.（1997）. Evaluation Use: Theory, Research, and Practice Since 1986, American Journal of Evaluation, 18（3）, 195-208

(2) 調査対象候補の検討

現在、以下の事業に調査研究の交渉中である。(いずれも SROI による事業評価を予定している)

- A) 株式会社 LEIS が実施する介護予防事業
- B) 株式会社フローレンスが実施する病児保育事業
- C) Teach for Japan が実施する教師育成事業

(3) 研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定

- SROI による評価プロセス・評価結果により、評価参加者（ステークホルダー）にどのような意識や態度の変化が生まれたか？
- 評価参加者の意識や態度の変化により、事業の継続的な推進・改善にどのような影響があったか？

(4) 研究方法の検討

- ① 先行研究レビュー（SROI による事業評価の先行研究レビュー）
- ② SROI 実施前の事前調査（アンケート調査又はインタビュー調査）
- ③ SROI による事業評価（文献調査及びフィールドワーク）
- ④ 評価参加者の意識調査とその内容分析（グループディスカッション又はインタビュー調査）

(5) スケジュール

～2014年1月	先行研究レビュー、SROI 評価の事前調査
2014年2月～3月	調査対象への交渉・事前調査
2014年4月～6月	SROI による事業評価（文献調査及びフィールドワーク）
2015年7月～8月	SROI 分析、報告書作成、評価結果報告
2015年9月	評価参加者の意識調査（FGD・インタビュー）
2015年10月～	論文執筆

以上